



特定非営利活動法人

発行：2015年1月31日
発行責任者：飯沼一宇
仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル402

子どもの村東北

News Letter Vol.9

「子どもの村東北」開村しました



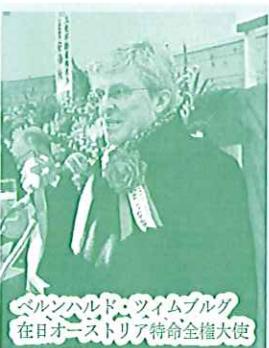
2014年12月19日（金）快晴。遂にこの日がやってきました。2012年6月にNPO法人として産声をあげた当法人は、SOS子どもの村をこの東北の地に設立するため、多くの方のご協力を頂きながら歩みを進めて参りました。そして開村式を挙行するに至りました。会場となった仙台市茂庭台市民センターには、国・内外から約150名のみなさまにご列席賜りました。

はじめに、飯沼理事長から開村にあたり、皆様への感謝のことばと、子どもの村の意義そして今後の抱負をお伝えしました。

〈飯沼理事長挨拶の要旨〉

第二次世界大戦後の1949年、オーストリアの医師ヘルマン・グマイナーが町にあふれる戦災孤児を見て、「すべての子どもは愛ある家庭で育てられる権利がある」との理念をもとに、オーストリア、イムストにSOS子どもの村を設立しました。現在では、世界134か国、548か所に「子どもの村」が建設されています。裕福な家庭の子どもも、生活に困窮している家庭の子どもも、親のいる子どもも、不幸にして親を亡くした子どもも、子どもはすべて未来を担う、社会のそして国の宝です。現在、災害、貧困、子育て放棄、虐待など様々な理由で親と暮らせない子どもたちを社会全体の責任として育てていくことを社会的養護と言います。その担い手の一つとしてSOS子どもの村があります。

2010年に福岡市に日本で最初の「子どもの村福岡」が設立されました。東日本大震災を契機に、わが国2番目の子どもの村東北が、ここに設立されました。センターハウスでは、保育士、児童心理士、小児科医、社会福祉士などが子育てをサポートする体制を作ります。それぞれの家では、育親が子どもたちを育てます。震災のトラウマや様々な心の傷を負っている子どもたちを家庭的な愛情をもって育てていくことは容易ではないかもしれません。しかし、私たちは社会的養護の一つの形としてこの活動を成功させなければならないと考えております。これからもご支援、ご協力、お励ましをお願いいたしまして開村のご挨拶といたします。



杜のホールに掲示された支援者銘板

その後に、オーストリアからお越し頂いたSOS子どもの村国際本部のクリスチャン・ポッシュ博士、厚生労働省の鈴木里香児童福祉専門官、宮城県知事代理としての伊東昭代保健福祉部部長、仙台市長代理としての板橋秀樹子供未来局局長、SOS子どもの村JAPAN保科清理事長よりご祝辞を頂きました。

会場を子どもの村へ移し行われた除幕式では、ベルンハルド・ツィムブルグ在日オーストリア特命全権大使にも加わっていただき、完成したばかりの子どもの村東北のサインボードの除幕を行いました。前々日から降り積もった雪のため、足元が悪かったのがとても残念でしたが、春には緑色の芝生に囲まれた美しい姿を見せてくれると期待しています。

パーティーは、杜のホール（多目的ホール）とカスケード（センターハウス中央部の廊下）、ミーティングルーム（2部屋）も会場として行われました。支援者でもありチャリティコンサートを開催して下さっている原田治子様に、太田博雄様から寄贈されたピアノ（シュベスター）で、リストの愛の夢を演奏していただき、杜のホールに美しい音色が広がりました。その後には、奈良美智さまから寄託して頂いたサーフィンドッグを皆様にご紹介させて頂きました。

歓談の中では、東京大学大学院のロバート・キャンベル教授とイケア・ジャパン株式会社ミリア・ヴィアネン副社長からお祝いのスピーチも頂きました。

パーティーの締めくくりとして、子どもの村のスタッフ紹介の後、今野村長が皆様へのお礼と今後の子どもの養育に最大限努力していくとの決意を述べました。

尚、これまでにご支援して頂いた支援者・支援企業団体のみなさまのお名前は、杜のホールに掲示された支援者銘板に刻まれております。そのみなさまの想いと多忙な中足を運んで頂いたみなさまの期待を心に、これから永い“村づくり”的歴史を進めて行きます。皆様には重ね重ね御礼申し上げます。そして、これから始まる子どもの村東北の歩みに寄り添って頂きますよう心よりお願ひ申し上げます。

〈ポッシュ博士のメッセージの要旨〉

日本における2つ目のSOS子どもの村の開村に立ち会えることを大変光栄に思います。
私は子どもの村東北に次の事を望みます。

1. 里親家族、子ども、若者たちとプロフェッショナルとして働くこと。
2. 子どもの村の活動に関して、常に自らの専門性を磨き続けること。
3. 子どもの村東北の活動のインパクトが、村の外まで遠く広く知られること。そして、親愛なる子どもと若者たちに、彼らの家がたくさん安心、安全、そして愛に満ち溢ることを願っています。

■ 子どもの村運営体制スタート

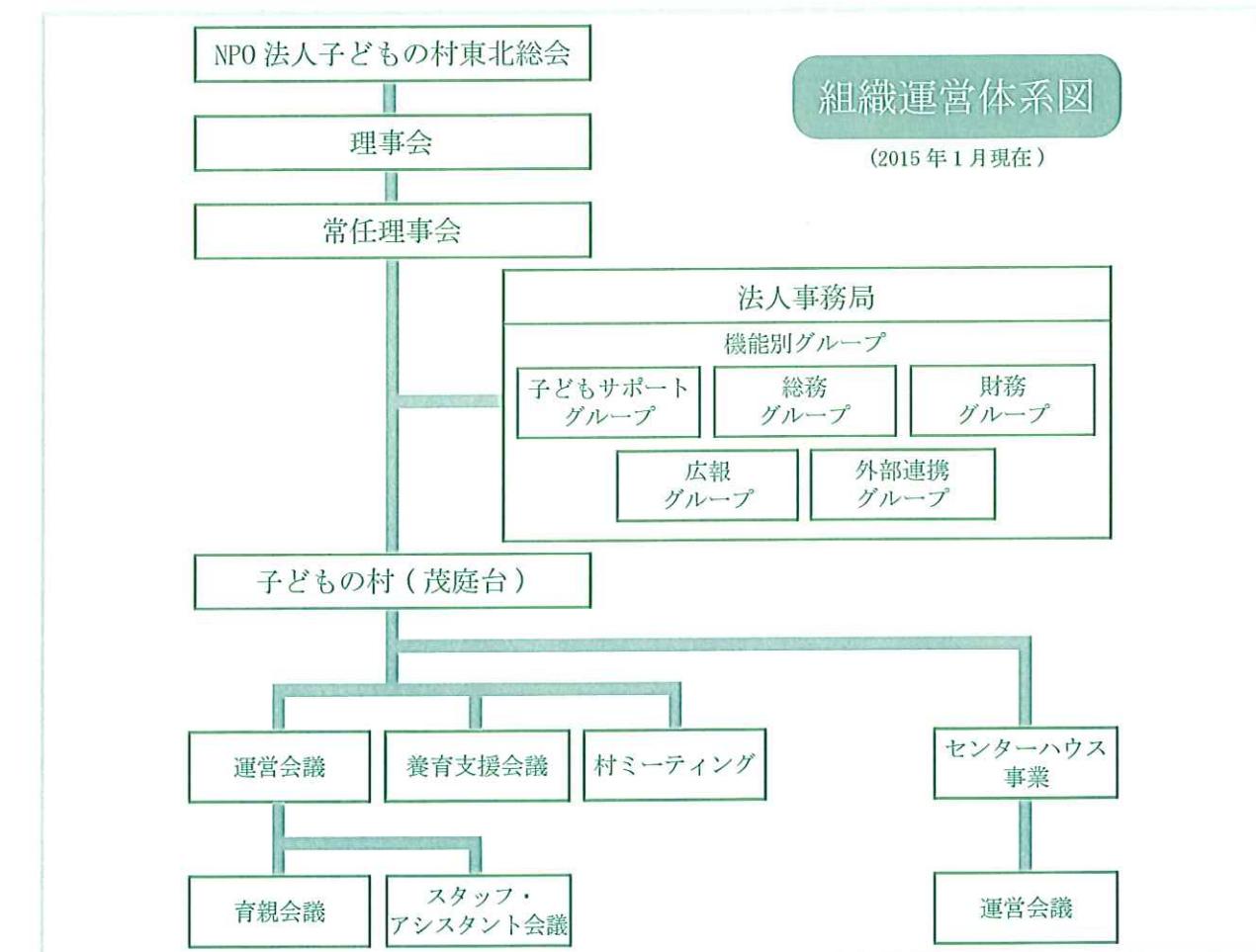
NPO 法人子どもの村東北は開村を機に、村長をはじめとする村のスタッフ体制を発表し、法人の組織体制を改めて確認し新たな一步を歩み始めました。

村長には宮城県立石巻支援学校校長を務めるなど豊富な教育経験を持つ今野和則理事が就任し村長の家に住み込んでいます。育親は、子どもの村福岡での研修や仙台市の里親研修を終えた岡山環さんが家族の家A棟に、伊藤智明・奈美夫妻が家族の家B棟に入居しております。育親アシスタントの佐々木真喜、三品麻衣子の2名もセンターハウスに併設の居室に入り、菅原温センタースタッフとともに子どもたちの受け入れ準備を進めています。

新年早々この1月、オーストリア (SOS 子どもの村インターナショナル国際本部がある) のケルンテン州モースブルクにある子どもの村など数カ所へ2名の理事、2名のスタッフ、1名の育親が、4名の子どもの村福岡の理事・事務局長・育親と共に研修に行って来ました。この研修は、バンクオブアメリカ・メリルリンチ助成事業を受けて実施することが出来ました。SOS 子どもの村の理念とその歴史と実績、さまざまなプログラムを体感することができました。今後は村の家族の家の養育とセンターハウスを中心とした子どもの村以外に住む里親世帯や震災孤児遺児世帯へのサポートを実践していくために、今回の研修を生かしてプログラムの開発や活動の進め方を構築していきます。

現在、子どもの受け入れに関しては児童相談所との調整も進んでおり、子どもが村に来る日も近づいています。

これからが本当のスタートとなります。安定した事業を継続するためには、安定した資金が必要不可欠となります。末永いご支援を宜しくお願ひいたします。



第6回「もうひとつの絆」フォーラム開催します

「もうひとつの絆」とは・・・東日本大震災では1,700名を超える子どもたちが親を亡くしました。また、親の病気や死亡、育児放棄や虐待など様々な理由で家族と暮らせない子どもたちは、全国で4万7,000人を超えていました。実家族との「絆」と、里親さんとの「新しい絆」、子どもたちにとってそのどちらの絆も大切にしていきたいとの思いを込めて、命名されました。

このプロジェクトは、子どもの村東北、宮城県なごみの会、仙台市ほほえみの会、宮城県、仙台市、SOS子どもの村 JAPAN の6団体共同のプロジェクトです。これまで、「家族と暮らせない子どもたちのために」と題したフォーラムを5回実施してきました。

今年のフォーラムは、2月14日(土)13:00より、仙台市シルバーセンター(仙台市青葉区花京院)で開催します。日本女子大学の林浩康教授による「ともに育てる里親養育」と題した特別講演も興味深いところです。振るってご参加ください。お申し込みは、ホームページまたはお電話で。

◆日時：2015年2月14日(土)開始13:00～終了16:30(参加無料)(託児あり)

13:10～13:40 行政報告 宮城県中央児童相談所より「里親さんを待っている子どもたち」

13:50～15:00 特別講演 日本女子大学林浩康教授より「ともに育てる里親養育」

15:15～16:20 トークセッション「私の里親家族」

◆会場：仙台市シルバーセンター(仙台市青葉区花京院1-3-2)7階「第一研修室」

○○○多くの企業・市民の皆さんに一層のご支援をお願いいたします○○○

■支援方法1：支援会員として継続的な支援寄付により支えてください。

◎個人の方

寄付額は任意ですが、年間3,000円以上でお願い出来れば幸いです。

◎企業・団体の方

寄付額は任意ですが、年間30,000円以上でお願い出来れば幸いです。

■支援方法2：ご寄付をお願いいたします。

金額は問いません。いつでもお受けいたします。

■支援方法3：募金箱設置をお願いします！

幅広い人々に支えてもらうために店頭や受付、待合室、休憩室等にリーフレットとともに置かせてください。約縦10センチ×横10センチ×高さ20センチの募金箱です。ご連絡をお待ちしております。

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま(2014年11月～2015年1月31日)

トヨタ自動車株式会社、ひより台三町内会合同夏祭実行委員会、医療法人ささき小児科、医療法人社団松島小児科医院、なかむらクリニック、医療法人おおきこどもクリニック、医療法人ありま小児科医院、田宮小児科アレルギー科医院、医療法人こだま小児科、医療法人さかたこどもクリニック、医療法人社団はやしクリニック、医療法人社団清水医院、仙台広瀬倫理法人会、茂庭荘ゴルフ部会、すざき子ども医院、株式会社五十鈴工作所、林間聖バルナバ教会、医療法人青嶺会わたなベクリニック、医療法人社団愛幸会月岡医院、よりもとこどもクリニック、医療法人すどう小児クリニック、医療法人社団山中たつる小児科、川原田小児科医院、株式会社インテナショナルエアカデミー、吉岡興産株式会社、森本小児科、株式会社みちのく企業、国際ソロプロチミスト太宰府、仙台パイロットクラブ、こどものお医者さんおがわクリニック、ILBS国際福祉協会、国際ソロプロチミスト仙台アイリス、イケア・ジャパン株式会社、サイモンリンク株式会社、こどもOENDANしよう、大里南市民センタークラブ協議会、一般社団法人加古川医師会はなぶさ小児科、オバサンズ、「みんなともだちプロジェクト」入間支部(ハッピーチルドレン実行委員会)、甘木ロータリークラブ、コスマスカイサトウイイン、玉名女子高等学校インタークトクラブ、ウエダショウニカイ、東工サービス有限会社、一般社団法人日本小児科医会、医療法人ひまわりの会太田小児科医院、Freundeskreis Tsunami-Waisen KIBOU e.V.、暮らしに押しばなをの会、株式会社センケンホーム、FMCCふくおは「笑顔ひとつづつプロジェクト」、ジェイアールバス東北株式会社、ホシコドモオトナクリニック、日本キリスト改
革派仙台カナン教会、白石契約教会、横浜山手聖公会、総合警備保障、豊橋三菱ふそう自動車販売株式会社、医療法人社団原口小児科クリニック、ケイコ・アイ・フォトクラブ、ドイツ語婦人会、まつかわ小児科、社会福祉法人宮城県共同募金会、浜松海の星幼稚園、猫八・小猫チャリティコンサート関係者一同、宗教法人東大寺、小児科青柳医院、日本キリスト教団巣鴨ときわ協会

*敬称略・順不同

◆支援会員

*個人会員 530名

*団体会員 35企業・団体

2015年1月31日現在

Web & Facebook ヘアセス

▶▶▶

URL

<http://soscvtohoku.org/>

子どもの村の今をご覧ください

▶▶▶ Facebook

<https://www.facebook.com/soscvtohoku>

特定非営利活動法人 子どもの村 東北

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル402

T E L : 022-748-6936

F A X : 022-748-6931

E-mail : tohoku@soscvtj.org

12/19
開村

【子どもの村 センターハウス】
〒982-0252 仙台市太白区茂庭台2丁目16-9-1
TEL:022-281-9653 FAX:022-281-9659
E-mail:center-t@soscvtj.org